

度会町における

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

度会町教育委員会
平成29年10月

本年4月18日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要について、度会町の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取組を以下のとおりまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが目的です。

しかしながら、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。このことを十分考慮し、今後の当町の教育の一層の充実を図ってまいります。

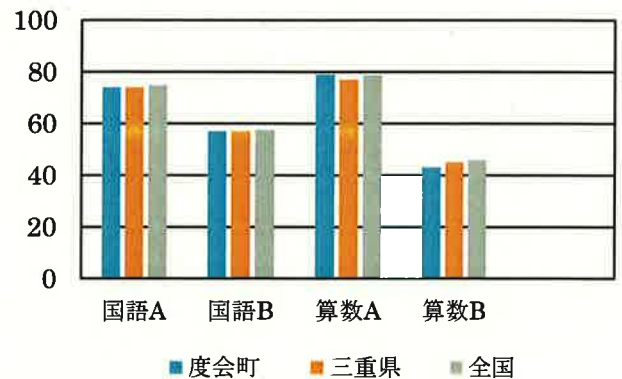
1、全体概要

■各教科平均正答率の状況

<小学校>

平均正答率	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
度会町	74	57	79	43	—
三重県	74	57	77	45	—
全国	74.8	57.5	78.6	45.9	—

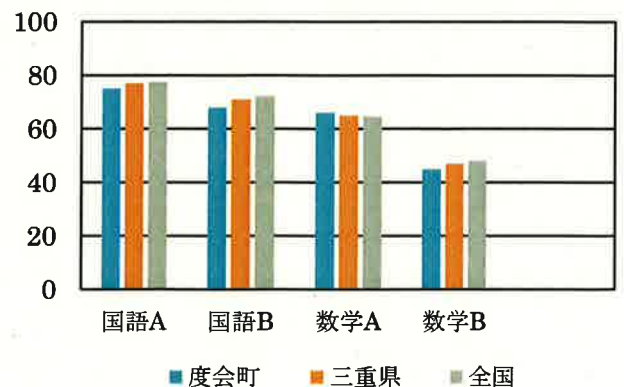
A…主として「知識」に関する問題 (％)
B…主として「活用」に関する問題



<中学校>

平均正答率	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
度会町	75	68	66	45	—
三重県	77	71	65	47	—
全国	77.4	72.2	64.6	48.1	—

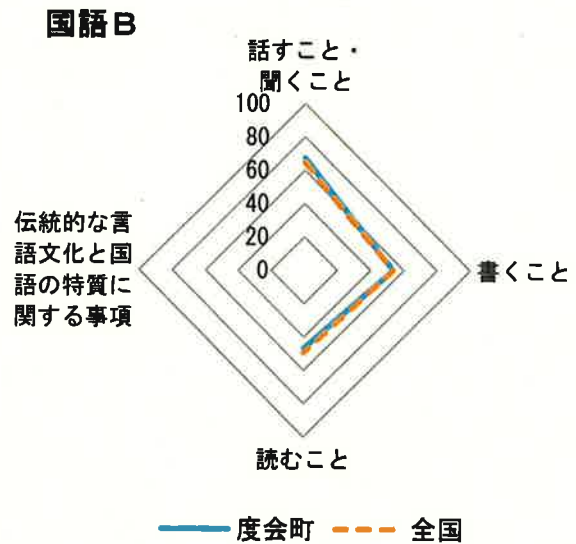
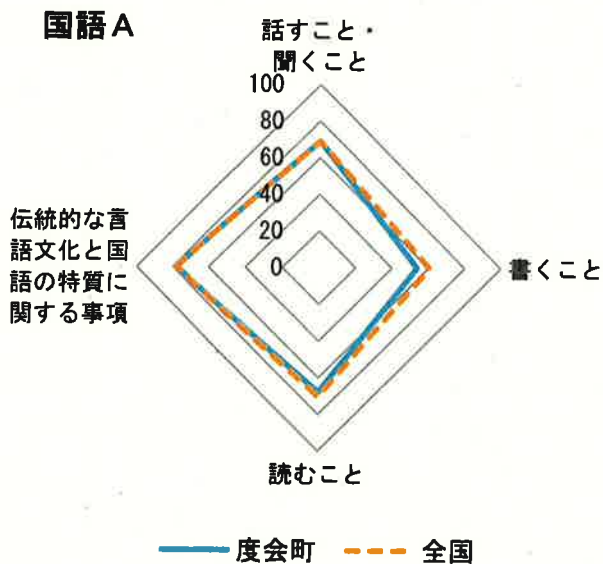
A…主として「知識」に関する問題 (％)
B…主として「活用」に関する問題



2、教科別概要

【1】小学校国語

■領域別平均正答率の状況



※国語Bに「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域にかかる問題は出題されていません。

■調査問題結果からみる傾向（◇強み ◆弱み）

◆手紙の表書き宛名や住所を正しく書くことや、後付けにおける署名と宛名の位置関係といった手紙の基本的な形式などについて課題がみられます。

・問題A2二 自分の名前、日付、相手の名前の配置を考えます。

(町 25.5% 県 42.2% 全国 41.5%)

◆俳句を読んで、どのような観点で読まれた句なのかを読み取ることに課題がみられます。

・問題A4二 見つけた俳句の良さについて紹介する。

(町 47.3% 県 56.9% 全国 57.0%)

◇ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることが概ねできています。

・問題A5イ ことわざの使い方の例として、最も適切なものを選びましょう。

(町 87.3% 県 81.6% 全国 83.6%)

◇漢字の読み書きについて概ねできているようです。

・問題A7(3) 「参加たいしょう」→「対象」

(町 56.4% 県 37.0% 全国 42.0%)

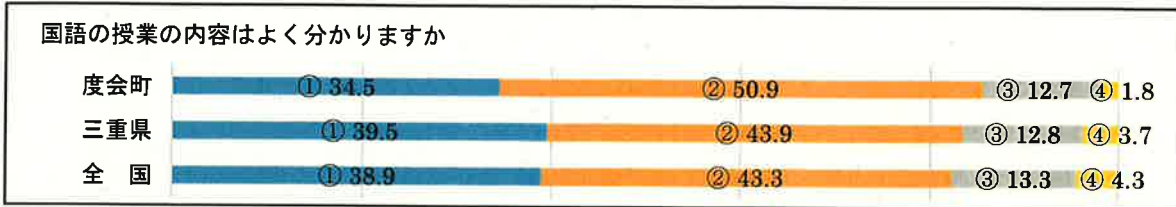
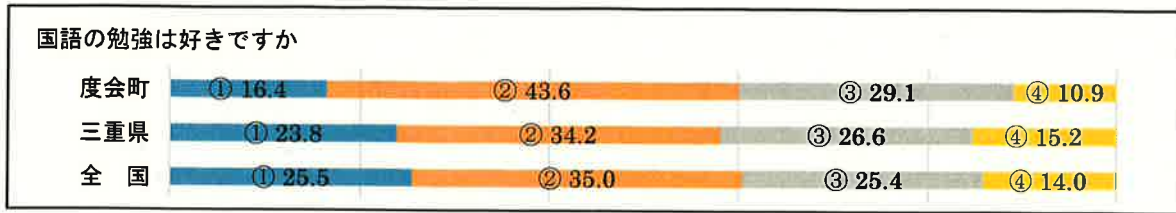
◆目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える力に課題がみられます。

・問題B2一 ●●における文章の構成の工夫として当てはまるものを選択する。

(町 63.6% 県 70.7% 全国 70.8%)

■学習への関心・意欲・態度（児童質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

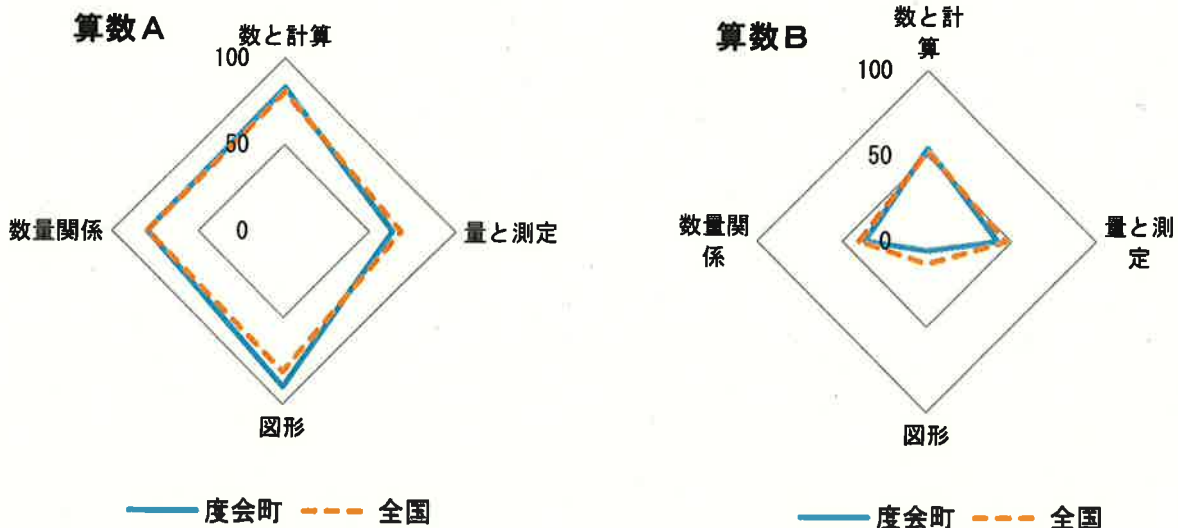


■全体的傾向と課題

- ・基礎的・基本的な知識・技能は、概ね身につけています。目的や意図に応じて、場に応じた適切な言葉遣いで話すことや、自分の考えを相手に伝えることができます。
- ・手紙の構成を理解し、後付けを書くなどに課題が見られ、実用的な文章としての手紙を書くことや、目的や意図に応じ、文章構成を整理して書くなど、書くことへの指導の充実が必要です。
- ・「国語の授業の内容はよく分かるか」に対し、肯定的に感じている児童が多く、それに比例するように「国語の勉強が好きか」に対し、6割の児童が肯定的な回答をしています。
- ・目的に応じて資料を読みとることや、自分の考えを理由が分かるように書くなど、目的意識や相手意識をもって取り組むことについては、ほとんどの児童が肯定的な回答をしています。この姿勢が全体に行き届くように今後も丁寧な指導が必要です。
- ・話の組み立てを考えて話すことについて、過半数の児童が否定的な回答をしています。うまく伝えるためにも発表の機会の拡充が必要です。

【2】 小学校算数

■ 領域別平均正答率の状況



■ 調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◇具体的な問題場面において、乗法で表すことができる二つの数量の関係が理解できています。

- ・問題 A 1 (1) 1m あたりの値段が 60 円のリボンを 2m 買ったときの代金はいくらですか。また、3m 買ったときの代金はいくらですか。

(町 100.0% 県 96.8% 全国 96.9%)

◆大きな桁数の計算に課題がみられます。

- ・問題 A 2 (1) $123 \times 52 = 6396$

(町 76.4% 県 85.4% 全国 85.2%)

◇立方体の面と面の位置関係について、概ね理解できています。

- ・問題 A 7 図を見て、指示された面と平行になる面を答えます。

(町 94.5% 県 85.0% 全国 86.7%)

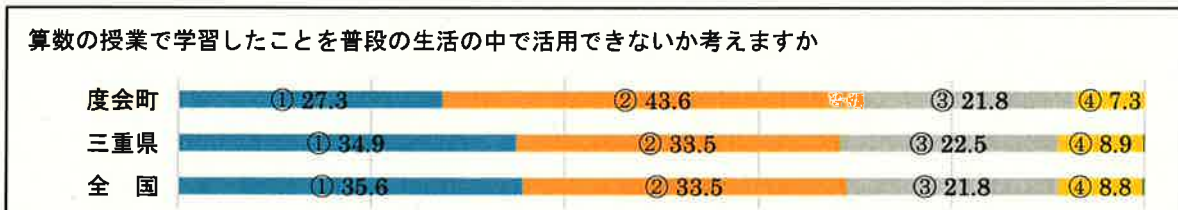
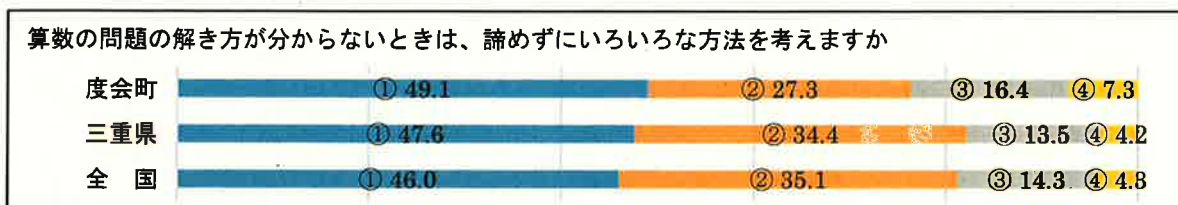
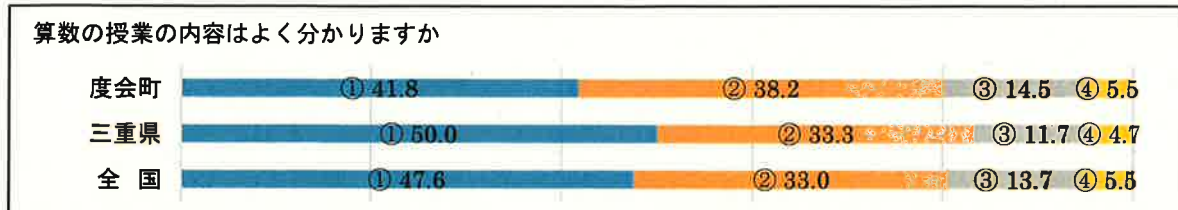
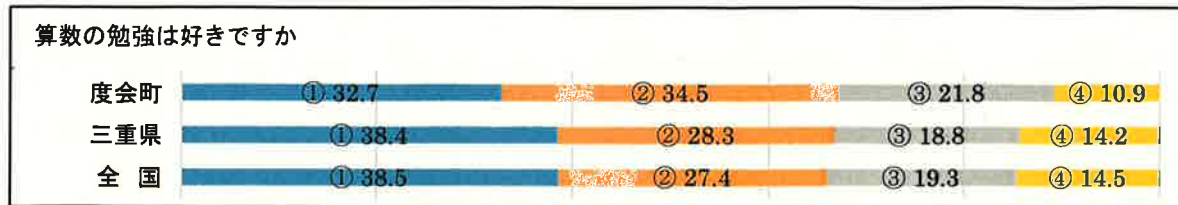
◆差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを言葉と式を用いて記述する力に課題がみられます。

- ・問題 B 2 (1) 封筒の重さと料金の表を見て、小さい封筒に入れたときと大きい封筒に入れたときを比べて何円安くなるかの答えを、言葉や式を使って書く。

(町 30.9% 県 40.6% 全国 40.4%)

■学習への関心・意欲・態度（児童質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

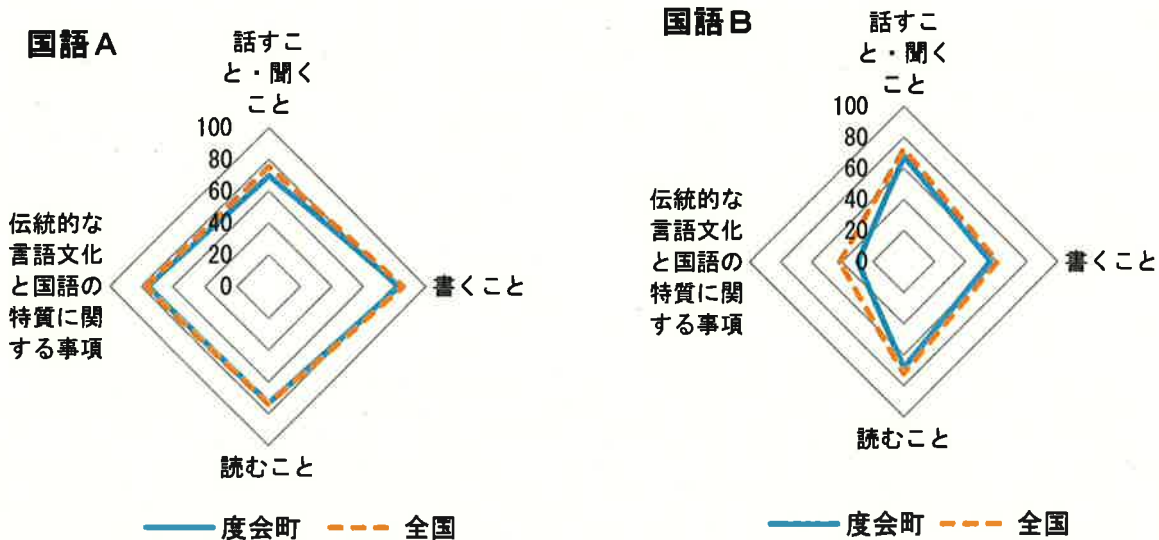


■全体的傾向と課題

- ・ 基礎的・基本的な計算技能の習得については、概ね理解できています。反復学習と見直しの習慣を付け、一層の安定化が必要です。
- ・ 任意単位による測定について、習得の不安定さがみられることから、基礎からの復習と演習の反復を実施し理解の向上が必要です。
- ・ 数量や図形の理解について、内容・問題形式により習得にむらが見られることから、基礎からの復習と演習の反復を実施し安定した理解の向上が必要です。
- ・ 「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えているか」という問いに7割強の児童が肯定的な回答をし、「将来社会に出たときに役立つと思いますか」という問いについても、8割強の児童が肯定的な回答をしています。算数の重要性を理解し、取り組んでいることが分かります。

【3】中学校国語

■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◆書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫することや助言を基に表現を見直す力に課題が見られます。

- ・問題A³ 「がんばってきた」様子を「がんばる」という言葉を使わずに読み手に伝わるように表現する。
(町 81.8% 県 85.6% 全国 86.0%)

◆文章の構成を工夫して分かりやすく書く力の習得にむらが見られます。

- ・問題A⁵ ≪立候補者からの≫の欄の書き方を説明したものとして適切なものを選択
(町 75.3% 県 78.9% 全国 79.8%)

◇文脈に即して漢字を正しく書くことが概ねできています。

- ・問題A⁹—1 組織のキボを大きくする →規模 (町 75.3% 県 69.6% 全国 62.8%)
- ・問題A⁹—2 雨で運動会がエンキになる →延期 (町 63.6% 県 61.8% 全国 62.3%)

◆語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題が見られます。

- ・問題A⁹三ウ 選択肢の中から適切な敬語を選択する。
(町 75.3% 県 85.5% 全国 85.7%)

◆表現の仕方について捉え、自分の考えを書く力に課題が見られます。

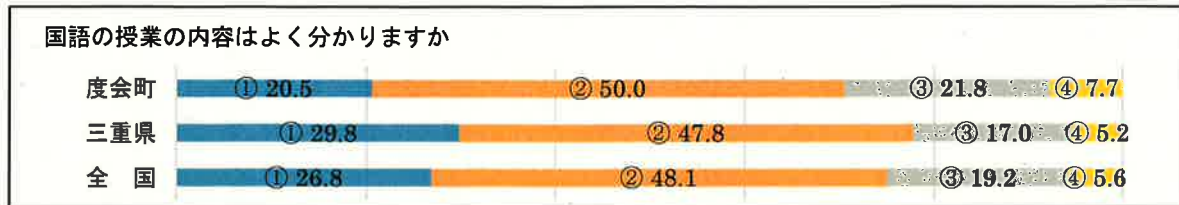
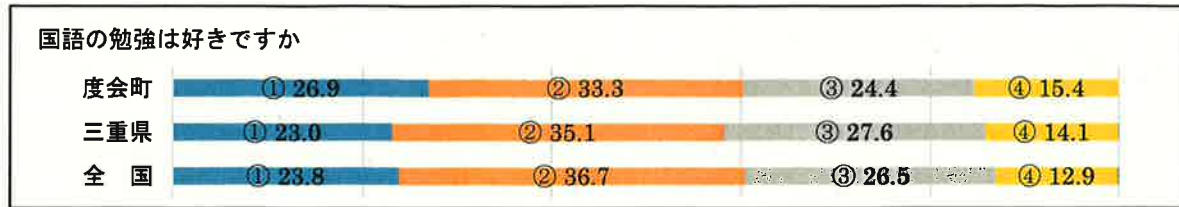
- ・問題B¹三 比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く。
(町 29.9% 県 38.2% 全国 41.4%)

◆話の論理的な構成や展開などに注意して聞く力について課題が見られます。

- ・問題B²二 聞き手が話し手に伝えようとしていることとして適切なものを選択する。
(町 67.5% 県 72.5% 全国 74.2%)

■学習への関心・意欲・態度（生徒質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

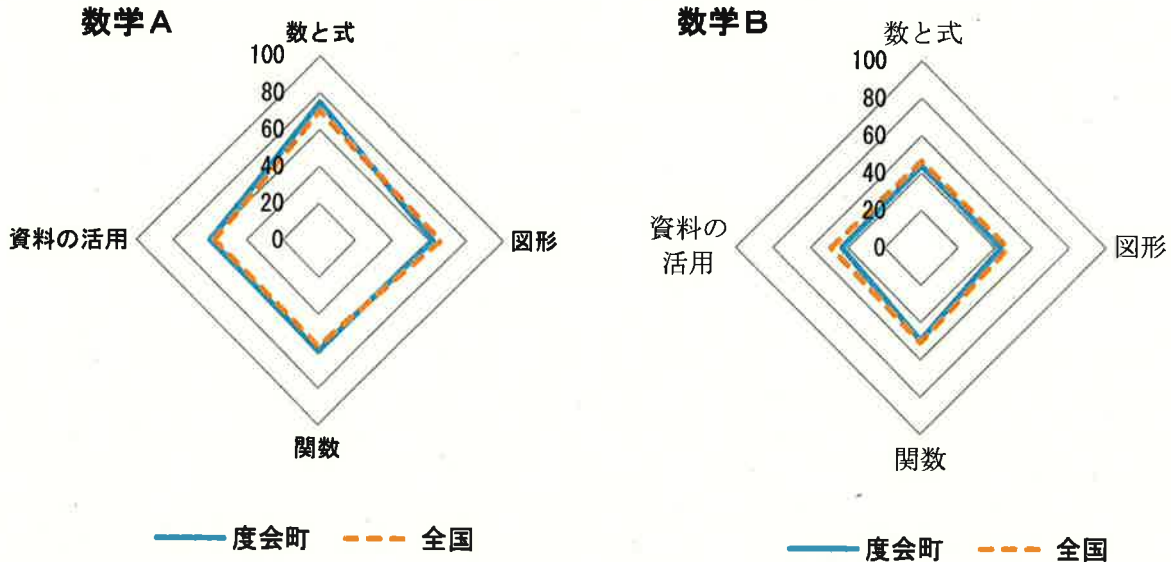


■全体的傾向と課題

- ・基礎・基本の力は概ね身に付いており平均的な調査結果となっていますが、活用や工夫に関する発展的な問題については指導の充実が必要です。
- ・読む能力は比較的高いことから一定の読書の成果が見られる一方、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くなど、書くことに注力した指導が必要です。
- ・「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という問いに7割強の児童が肯定的な回答をしているにも関わらず、文章の構成を工夫して分かりやすく書くことや、語句の使い方を工夫すること、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使う項目で、全て全国平均正答率を5～10ポイント下回る結果となっています。意識はしっかりと持っているのに、必要な力を確実に身につけていけるように、理解の向上を図る丁寧な指導が必要です。

【4】 中学校数学

■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◇加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがってする計算について概ね理解できています。

・問題 A 1 (3) $10 - 6 \div (-2)$ を計算する。 (町 92.2% 県 78.0% 全国 75.6%)

◆二元一次方程式の解の意味の理解について課題があります。

・問題 A 3 (3) $x + y = 2$ の解の意味について選択する。 (町 48.1% 県 57.8% 全国 59.6%)

◆扇形の弧の長さの求め方について、習得にむらがあります。

・問題 A 4 (3) 半径が 5 cm、中心角が 120 度の扇形の弧の長さを求めなさい。
(町 26.0% 県 28.4% 全国 30.7%)

◆事象を図形間の関係に着目して観察し、対称性を的確に捉えることに課題があります。

・問題 B 1 (1) 隣り合う 4 枚の正三角形の真ん中の 1 枚をある模様としたときに、残りの 3 枚にできる模様を選ぶ。
(町 55.8% 県 66.2% 全国 67.5%)

◆付加された条件の下で、図形の性質を用いることに関する理解にむらがあります。

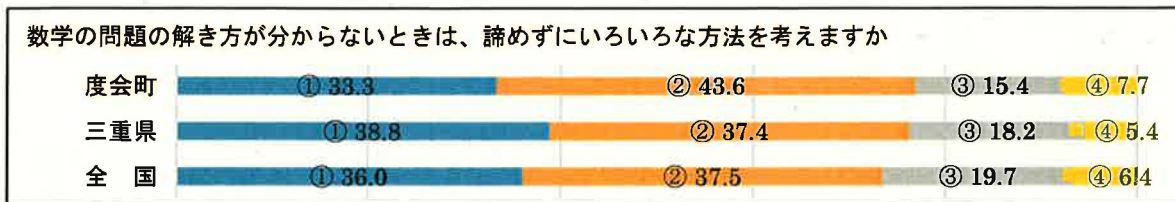
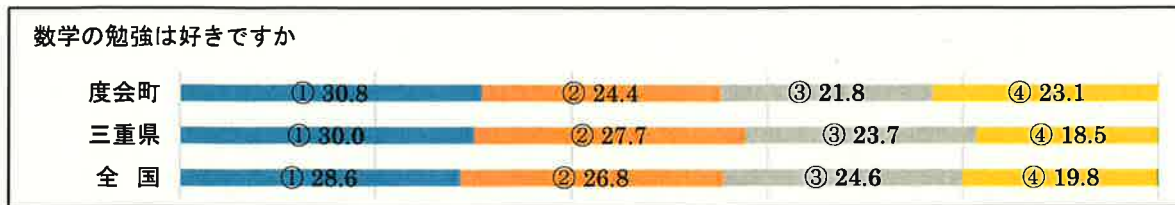
・問題 B 4 (2) $\angle BAD$ と $\angle CBE$ が 20 度のとき、 $\angle BEA$ の大きさを求める。
(町 49.4% 県 59.5% 全国 60.0%)

◇証明した事柄を用いて、新たな性質を見出す力が概ね身についています。

・問題 B 4 (3) 点 D と点 E を $BD = CE$ の関係を保ったまま動かしたとき、 $\angle BFD$ の大きさについて、正しい記述を選ぶ。
(町 50.6% 県 44.0% 全国 44.5%)

■学習への関心・意欲・態度（生徒質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



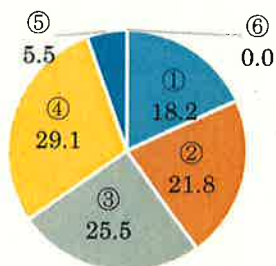
■全体的傾向と課題

- ・基礎的な計算技能をはじめとする計算全般及び図形、関数、資料活用などのすべての分野において、ほぼ全国・県平均と同等になっています。しかし、内容をみると比例や一次関数では概ね理解できている一方、図形では扇形の弧の長さの求め方や、空間における線と面の平行についての理解、立方体の見取り図の読み取りなどの習得にむらが見られるなど、図形関係の理解に課題があり、国や県より正答率が5ポイント程度低い結果となっています。基礎の復習や演習問題の反復などで理解を深めていく必要があります。
- ・数学に対する学習意欲は9割弱が肯定的な回答に対して、「授業がよくわかる」と肯定的に回答する生徒の割合は8割弱から、分かる授業改善と、きめ細やかな指導の向上を図っていく必要があります。

3、児童生徒質問紙調査の概要

【1】生活習慣

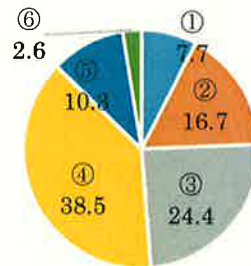
■小学校



平日のテレビ、ビデオ、DVD視聴時間

- ① 4時間以上
- ② 3時間以上 4時間未満
- ③ 2時間以上 3時間未満
- ④ 1時間以上 2時間未満
- ⑤ 1時間未満
- ⑥ 全く見たり聞いたりしない

■中学校



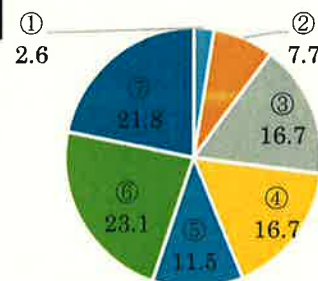
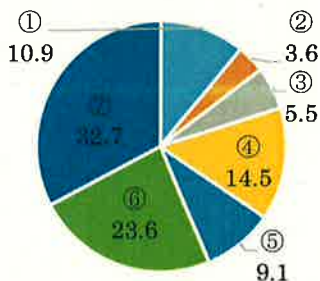
平日のテレビゲームを行う時間

- ① 4時間以上
- ② 3時間以上 4時間未満
- ③ 2時間以上 3時間未満
- ④ 1時間以上 2時間未満
- ⑤ 1時間未満
- ⑥ 全くしない



平日の携帯電話での通話・メール・ネット時間

- ① 4時間以上
- ② 3時間以上 4時間未満
- ③ 2時間以上 3時間未満
- ④ 1時間以上 2時間未満
- ⑤ 30分以上 1時間未満
- ⑥ 30分未満
- ⑦ 持っていない

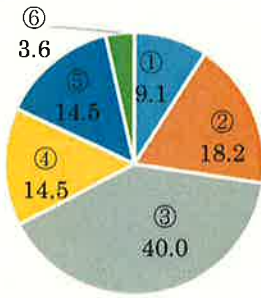


度会町の小・中学生の状況です。小学生では、3時間以上テレビやビデオを視聴している割合40.0%（全国平均32.7%）、3時間以上ゲームをしている割合38.2%（全国平均17.6%）、3時間以上携帯電話を使用している割合14.5%（全国平均7.0%）であり、全国平均と比べ、高い割合になっており、帰宅してからの時間をテレビなどの視聴に大半費やしている児童が半数近くいることが分かります。中学生では、3時間以上テレビやビデオを視聴している割合24.4%（全国平均25.3%）、3時間以上ゲームをしている割合20.5%（全国平均21.4%）、3時間以上携帯電話を使用している割合10.3%（全国平均18.1%）であり、全国平均よりやや低い傾向にあります。

また、携帯電話を所持している小学6年生児童が7割弱、中学生生徒では8割弱いることが読み取れます。

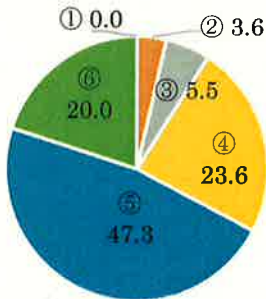
【2】 家庭学習

■ 小学校



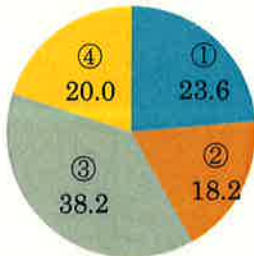
平日の勉強時間(学習塾・家庭教師含む)

- ① 3時間以上
- ② 2時間以上 3時間未満
- ③ 1時間以上 2時間未満
- ④ 30分以上 1時間未満
- ⑤ 30分未満
- ⑥ 全くしない



土日の勉強時間(学習塾・家庭教師含む)

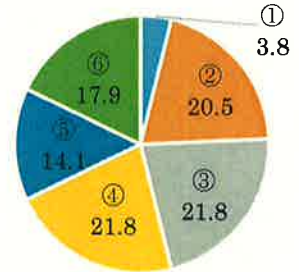
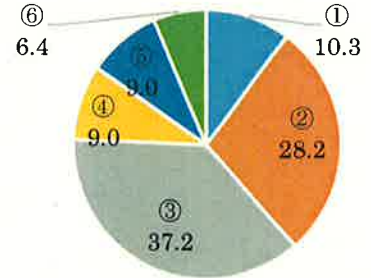
- ① 4時間以上
- ② 3時間以上 4時間未満
- ③ 2時間以上 3時間未満
- ④ 1時間以上 2時間未満
- ⑤ 1時間未満
- ⑥ 全くしない



自分で計画を立てて勉強していますか

- ① している
- ② どちらかといえば、している
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない

■ 中学校



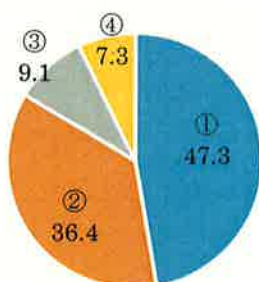
平日1時間以上勉強している小学生の割合は67.3% (全国平均64.4%)、土・日曜日では32.7% (全国平均57.3%)で、全国平均と比べて、特に休日の家庭学習に大きな差異が見られます。

中学生では、平日1時間以上勉強している生徒の割合は75.7% (全国平均69.6%)、土・日曜日では67.9% (全国平均69.4%)で、全国平均とほぼ同程度の割合です。しかし、「全くしない」生徒が平日では6.4% (全国平均4.9%)、土・日曜日では17.9% (全国平均10.0%)とやや高い傾向にあります。

また、学習塾に通っている子が、小学生で65.4% (全国平均45.8%)、中学生で75.7% (全国平均61.4%)と全国平均と比べて、塾などの学習機関を利用している児童生徒が多いことが分かります。

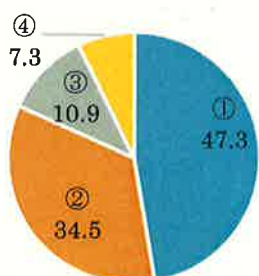
【3】 学校生活・規範意識

■ 小学校



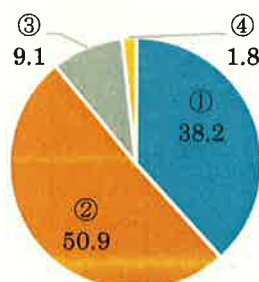
学校に行くのは楽しいと思いますか

- ① そう思う
- ② どちらかといえば、そう思う
- ③ どちらかといえば、そう思わない
- ④ そう思わない



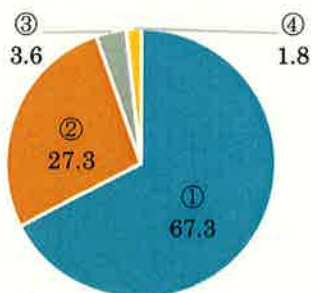
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない



学校のきまり(規則)を守っていますか

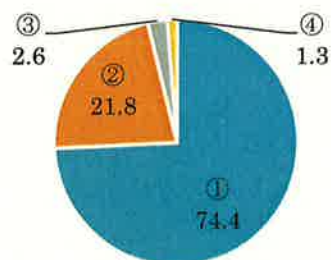
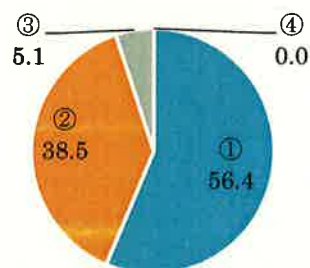
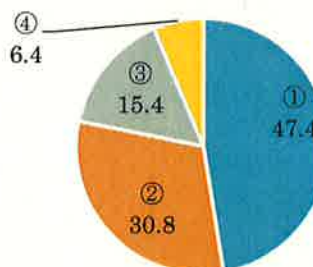
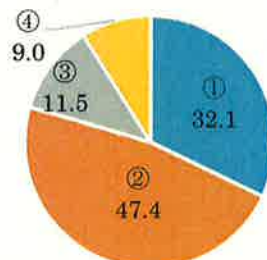
- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない

■ 中学校



学校のきまりや、いじめに対する意識など、児童生徒の規範意識は比較的高い傾向にあり、「学校へ行くのは楽しい」「みんなで協力してうれしかった」など学校生活での満足度が昨年度より向上しています。しかし、約2割の児童生徒が否定的な回答をしていることから、「楽しいと思わない」原因究明と具体的対策を図っていく必要があります。

【4】 地域、社会に対する興味・関心

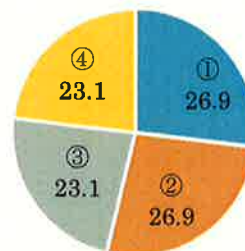
■小学校



地域の行事に参加していますか

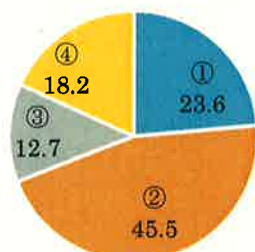
- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない

■中学校



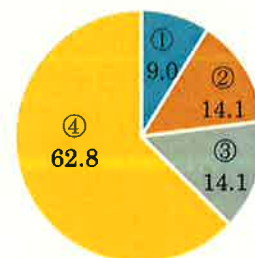
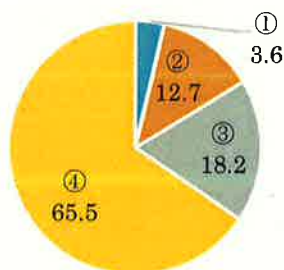
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない



新聞を読んでいますか

- ① ほぼ毎日読んでいる
- ② 週に1~3回程度読んでいる
- ③ 月に1~3回読んでいる
- ④ ほとんど、または全く読まない



地域の行事に参加している児童は 53.8%（全国平均 42.1%）、生徒は 60.0%（全国平均 62.6%）と、中学生になるほど地域との関わりがやや薄くなっていることがうかがえますが、一方では地域や社会で起こる問題や出来事への関心はやや高い傾向にあることから、生活スケジュールの中から関わりを持つための時間の確保が難しいことが読み取れます。

テレビのニュース番組やインターネット（携帯電話を使う場合を含む）のニュースは、小学生で8割、中学生で9割近くの児童生徒が見ていますが、新聞を読んでいる割合は、昨年度同様、小中学生とも全く読まない割合が高いことから、一層の活字離れがうかがえます。

小・中学校では、校外学習や体験活動の後に、個人新聞を作成する活動を計画的に取り入れています。読み手を意識した効果的な紙面づくりの技能を身に付ける指導を行っていますが、近年多くの媒体から情報を得ることができ、それぞれの家庭において新聞の捉え方も変わりつつある実態が読み取れます。

【5】読書活動

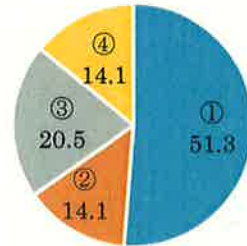
■小学校



読書は好きですか

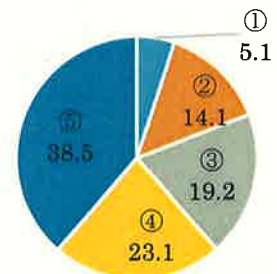
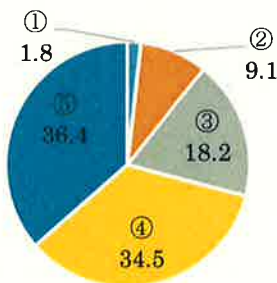
- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない

■中学校



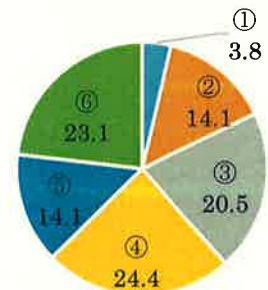
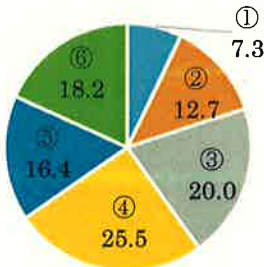
昼休みや放課後、休日に学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか

- ① だいたい週に4回以上行く
- ② 週に1~3回程度行く
- ③ 月に1~3回程度行く
- ④ 年に数回程度行く
- ⑤ ほとんど、または全く行かない



平日、学校の授業以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

- ① 2時間以上
- ② 1時間以上、2時間未満
- ③ 30分以上、1時間未満
- ④ 10分以上、30分未満
- ⑤ 10分未満
- ⑥ 全くしない



質問紙調査によると、小学生は74.5%、中学生は65.4%の児童生徒が「読書好き」と回答しており、全国平均（児童74.3%、生徒69.9%）にほぼ並んでおります。学校の図書室や地域の図書館に行く頻度については、月に1~3回程度以上行く児童29.1%（全国平均38.6%）、生徒38.4%（全国平均19.4%）であり、小学生と中学生では全国平均との逆転が起きています。

また、「ほとんど、また全く図書室に行かない」児童生徒がともに4割弱、「平日に読書を全くしない」と回答する児童生徒も一定割合存在しており、ここでも活字離れが読み取れます。

小・中学校では、司書教諭や図書運営員を中心に、児童生徒の読書環境の整備に努めていますが、図書室を活用した授業づくりや、家庭での読書活動につながる取組を引き続き図っていく必要があります。

4、学校質問紙調査の概要

全国学力・学習状況調査では、児童生徒を対象としたもの以外に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する『学校質問紙調査』も実施されました。児童生徒に対する調査結果と併せて分析し、各学校の指導方法の工夫、改善に繋げていきます。

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか

<小学校>よく行った <中学校>どちらかといえば、行った

「めあて」は、児童生徒がこの1時間の見通しをもつための仕掛けです。学習課題を解決していくための手がかりをつかむことで、「できそう」「こうやったらどうかな」という意欲が高まり、目的意識をもって授業に参加することができます。

児童生徒質問紙「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていますか」に対し、83.6%の児童、89.7%の生徒が肯定的な回答をしています。提示の仕方や、めあてそのものの工夫を今後いっそう図っていきたいと思います。

授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

<小学校>どちらかといえば、行った <中学校>あまり行っていない

「振り返り」は、授業冒頭に示しためあてに対して行うもので、児童生徒が学んだ内容の再確認や「できた」「こうすれば良かった」など、達成感や次の学習への意欲につながる大切な活動です。

小中学校では、めあての提示と同様に、各教科に応じた方法で行っているところですが、児童生徒質問紙「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」に対しては、72.7%の児童、74.4%の生徒が肯定的な回答をしています。中学校は「あまり行っていない」となっています。昨年度は「どちらかといえば、行った」と回答していたので昨年度同様に改善していきたいと思います。

学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか

<小学校>どちらかといえば、行った <中学校>どちらかといえば、行った

小中学校での話し合い活動は、授業に限らず頻繁に行われています。

学校での話し合い活動に際し、話し手と聞き手の目的意識をしっかりと指導し、今後も計画的に取り入れていきたいと思います。

学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか

<小学校>どちらかといえば、行った <中学校>よく行った

児童質問紙で「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して、63.7%の児童、68%の生徒が肯定的な回答をしているものの、学校の回答と比較して、自己肯定感を持っている児童生徒数の割合が低いことが分かります。自分の良いところも悪いところも含めて自分の全てを肯定できる前向きな感情が、何事にも挑戦していく強い心と相手を思いやる心の基礎であると言われていています。児童生徒の自立・共生のためにも自己肯定感を高めていく教育に努めていきたいと思います。

授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか

<小学校>よく行った <中学校>どちらかといえば、行った

学校での学習内容が、普段の生活や児童生徒の身近な問題の中で、生きた知識として活用されることが大切です。児童生徒質問紙調査によると、地域や社会の出来事に関心がある割合はやや高いのですが、関わる機会や時間の確保が難しい状況です。小中学校では、今後もいっそう身近な題材を適宜取り入れ、地域との交流を積極的に行っていきたいと思います。

将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

<小学校>あまり行っていない <中学校>どちらかといえば、行った

キャリア教育の指導に際し、小学校では「自己肯定感を高めながら、夢や希望を持って努力し、意欲をもって学び続ける児童の育成」を推進目標としています。中学校では「望ましい職業観の育成とともに、卒業後、そして将来を見据えた進路選択・進路決定が主体的にできる生徒の育成」を目標に、3年間を系統的にきめ細かく指導を行っています。

校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか

<小学校>週に2~3日程度 <中学校>週に2~3日程度

学校長は、都合のよい時間をみては、校内を巡回しています。それは、授業の時間に限らず、登下校や昼休みの時間、時には児童生徒がいない玄関や教室など、校内の様子を直接見て確認します。管理職として学校全体を把握し、児童生徒の頑張りや困り感、教職員一人ひとりの指導に注力していくことへの責任があります。

平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

<小学校>行った <中学校>どちらかといえば、行った

全国学力・学習状況調査は、対象学年の児童生徒のためだけに実施されている調査ではなく、全ての児童生徒、全ての学年の教職員の授業工夫・改善のために実施される調査です。昨年度の結果分析にあたっては、各校および町教育委員会の分析に加え、県教育委員会の分析指導も受けながら丁寧に行いました。

その上で、課題の克服に向け、県教育委員会学力向上アドバイザーによる過去問題活用授業の実践や、外部講師を招聘した校内研修、また教職員間での模擬授業の実践などにも取り組んでいるところです。

5、全体的な課題

学力調査からみえる課題

学習した知識・技能を日常の事象・現象、
また社会的問題に当てはめて考える力の育成

- ・ 既習の知識や技能を活用し、主体的に取り組めるような身近で、かつ解決の必要性を感じるような課題設定が一層必要です。
- ・ 予想や仮説、結果の見通しを持たせることで、探究心を伸ばすような授業づくりが一層求められます。
- ・ 自分の考えを整理し、他者に伝えたり、書いてまとめたりする技能を身に付ける指導の充実が一層求められます。

学習状況調査からみえる課題

主体的に学習に向かう姿勢と生活習慣の見直し

- ・ 授業や家庭学習において、与えられた指示以外に、自ら課題を持ち、学習に向かう姿勢が消極的です。
- ・ 生活習慣の見直しや、家庭学習の習慣化に向け、家庭と連携しできる事から一つずつ進めていく必要があります。
- ・ 地域や社会で起こる出来事や問題に関心が低い児童生徒が多いです。学習の題材として適宜取り入れ、興味関心を喚起する話題に触れる機会の拡充が必要です。
- ・ 自己肯定感が低めの児童生徒に対し、授業に限らず、学校行事や学級活動を有効に活用し、きめ細かな指導が求められます。

6、今後の取組・支援

【1】教育委員会が行う取組・支援

今回の全国学力・学習状況調査に際し、各学校では調査後一人ひとりの解答用紙をコピーし、一言一句丁寧に読み返し、自校採点を行いました。細かな分類に分け採点し、集計する作業は、かなりの時間と労力が必要でした。それでも、採点することで、一人ひとりのつまずきを把握し、解答を細かに分類することで、問題を深く研究し、学習指導要領で求められている力の理解を深め、その上で、これまでの授業を振り返り、早期から授業の工夫・改善に向け取り組んでいます。

町教育委員会では、こうした各学校の取組を支援するとともに、指導主事の派遣を通じ、授業改善や校内研修がより効果的に行われるよう指導を行います。

■具体的事項

- ・ 少人数指導等、個に応じたきめ細かな指導が行えるよう引き続き支援します。
- ・ 特別な配慮を必要とする子どもへのサポート体制や、教育相談体制を一層推進します。
- ・ 教職員研修や研究授業の指定を通じ、教職員の資質向上ならびに授業改善を図ります。
- ・ 町教育委員会と小中学校の担当者が会する度会町学力向上推進委員会等を通して、9年間を見通した教育の充実に努めます。
- ・ 度会町ふるさと歴史館等の学習施設の充実に努めるとともに、各種事業を通じた郷土学習に取り組めます。
- ・ 児童生徒の主体的な学習意欲を育むため、地域学習や体験活動など各種取組を支援します。
- ・ 土曜日の授業がより効果的に実施されるよう、定期的な検証を行います。
- ・ 計画的な図書整備や専門員配置など、読書環境の整備を継続して行います。併せて、読書推進に向けた各種事業にも積極的に取り組めます。
- ・ 地域の方々に、学校教育活動に一層興味・関心をもってもらい、学校とともに子どもたちを育み、見守っていただくため、学校ならびに教育委員会は積極的に情報を発信していきます。

【2】家庭や地域へお願いしたいこと

学校では、子どもたちが将来社会人として自立するための基礎となる「学ぶ力」を育てています。「学ぶ力」とは、「なぜ?」「知りたい」「調べてみよう」と、問題を見つけ出し、学んだ知識を活用しながら、見通しをもって、その解決を図る力のことをいいます。これは、各ご家庭や地域の皆さまの協力によって、その成果を何倍にも高めることができます。

子どもたちは、認められ励まされることで、「見守られているな」という安心感や、「頑張った良かった」という達成感、充足感を抱き、それが自信と今後の「学ぶ力」につながります。良いところは真っ直ぐ伸ばし、課題と考えられるところは、改善に向け、私たち大人が手を携え導いてあげることが必要です。子どもたちの豊かな成長と、自ら学ぶ力を育むため、子どもとの関わりを振り返り、まずは一歩踏み出していただけませんか。

■保護者の皆さまへ

- ★「早寝早起きをする」「朝食をきちんと食べる」等毎日の規則正しい生活リズムが大切です。きちんとした生活習慣を身につけましょう。
- ★テレビ、ゲーム、携帯電話の使用は、ご家庭でのルールをしっかりと話し合しましょう。
- ★子どもの学習に目を向け、“頑張り”を見逃さず、応援してあげてください。自己肯定感を高め、何事にも意欲的に向かう姿勢を育てましょう。
- ★学校や身のまわりの出来事など、子どもと話す時間を持ち、しっかりと聴いてあげてください。
- ★地域や社会の出来事に目が向くよう、新聞やニュースをもとに、働きかけをしましょう。
- ★地域の行事やPTA行事には、子どもと一緒に参加しましょう。
- ★家族の一員として、家事への協力を呼びかけ、責任感と自立心を育てましょう。
- ★読書をとおした学びを応援してください。本を通じた共通の話題を持つことや、図書室に立ち寄りたりするなど、無理なくできます。保護者の方も一緒に楽しみませんか。町民の皆さまが利用できる図書室として、町内には、中央公民館図書室（棚橋）、地域交流センター図書室（棚橋）、南伊勢高校度会校舎図書館（大野木）があります。

■地域の皆さまへ

- ・子どもたちは、元気にあいさつをしていますか。学年が上がると、照れもあるのか、声も小さくなりがちですが、地域の方との触れ合いは、まず「あいさつ」です。恥ずかしがっているようなら、一声掛けてあげてください。
- ・子どもたちは、地域での遊びや行事、交流活動から、社会性を身に付けていきます。良い行いは褒め、危険なことやマナーに反することには、毅然とした対応をお願いします。
- ・少子化により兄弟姉妹や地域内の同世代と関わる機会が減っています。また、家族のスタイルも変わりつつある中で、子どもが学校や家庭以外で、他者と関わる機会が今後一層減っていくことが危惧されます。中でも、異年齢者と関わる大切な機会は、今後いっそう地域の中で求められることとなります。温かい見守りと声掛けをお願いします。

教育のねらい…子どもの「自立」と「共生」

“子どもの可能性を真っ直ぐ伸ばしましょう”

中学生「独自性」

学習の仕方を振り返り、自分にあった学習計画や方法を検討し、取り組めるよう見守りましょう。

小学校 5.6 年「見届け・励まし、自主性を」

自分の目標を持たせ、自分のペースでじっくりと取り組めるように励みましょう。

小学校 3.4 年「認めて・ほめて、やる気を」

自分からやろうという気持ちを持たせ、十分にほめ、最後までやり遂げさせましょう。

小学校 1.2 年「寄り添う」

寄り添って学習させることで、わかる楽しさを実感させましょう。